

活力ある日本を取り戻すカギは、
地域が握っている――

地域がそれぞれの特性を活かして切磋琢磨することで、日本は再び世界を引き付ける魅力を持つ。
そのためには、地域自らが、そのビジョン・政策をデザインすることが不可欠である。

私たちは、魅力ある九州の実現のため、「アジアの活力を取り込むにはどうするか」「誰にとっても便利に動けるまちをどうつくるか」に焦点をあて、「九州の自立と成長戦略」を提言する。

2010 年度 地域政策デザイナー養成講座（九州大学セミナー）
受講生

有隅基樹、有吉孝純、李 受珍、池田昌太、石丸修平、上田広記、上野孝太郎、大坪恵太郎、大村琢磨、櫛間嘉徳、小嶋寿見子、定村慎太郎、重松一俊、鶴崎泰将、中村義治、林 謙一、廣渡佳衡、福田幸代、藤田耕輔、藤吉万里、松尾彩佳、松岡由樹、松崎真典、見村和嗣、村山由香里、諸永隆晃、矢野勝久、吉田俊之、和田克之、渡辺大輔、渡辺満生 （31 名）

地域政策デザイナー養成講座（九州大学セミナー） 講演者一覧

講座名（開催日）	講演者のみ掲載
セミナー 1 （3/29、4/12）	・オリエンテーション
第 1 回講演会 （4/2）	「グローバル経済の変容と求められる人材」 チャールズ・D・レイクⅡ アフラック日本における代表者・会長
第 2 回講演会 （4/19）	「日本経済と地域のグローバル戦略」 中川勝弘 国際経済研究所 代表取締役理事長（前トヨタ自動車副会長）
第 3 回講演会 （5/10）	「九州の地域経営と人材育成」 石原 進 九州旅客鉄道 代表取締役会長
セミナー 2 （5/17）	「街を元気にする都市交通のあり方」 小林成基 NPO 自転車活用推進研究会 理事長兼事務局長
第 4 回講演会 （5/24）	「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」 森 雅志 富山市長
第 5 回講演会 （6/7）	「九州地域の活性化に向けて」 橋高公久 経済産業省九州経済産業局長
第 6 回講演会 （6/21）	「地域主権国家形成における地域政策デザインの可能性」 モンテ・カセム 学校法人立命館 副総長（前立命館アジア太平洋大学 学長）
第 7 回講演会 （7/5）	「地域活性化政策の系譜と今後の動向」 和泉洋人 内閣官房地域活性化統合事務局長、慶應義塾大学教授
第 8 回講演会 （7/19）	「アジアに存在する日本ー日本の国際貢献：難民」 志野光子 外務省総合外交政策局 人権人道課長
第 9 回講演会 （8/2）	「道路使用と駐車ー道路交通法の考え方」 末井誠史 国立国会図書館 調査及び立法考査局 行政法務調査室主任 専門調査員（前警察庁交通局長）
セミナー 3 （8/21）	・留学生へのヒアリング、報告書の骨子決定
第 10 回講演会(8/30)	「『道州制の九州モデル』を考える」 矢田俊文 北九州市立大学 学長
セミナー 4 （9/13）	「国際観光（インバウンド）を取り巻く状況と取組み」 市川政文 九州運輸局 企画観光部計画調整官（国際観光担当） 「公共交通の活性化・再生について」 城 麻実 九州運輸局 企画観光部交通企画課長
セミナー 5 （9/25）	「九州アジア観光戦略特区について」 田代雅彦 九州経済調査協会 調査研究部長
セミナー 6 （10/4）	・報告書素案等編集作業
セミナー 7 （10/16）	・専門有識者へのプレゼンテーション及びディスカッション 中山良一 九州・アジアビジネス連携協議会 代表理事 国吉澄夫 同協議会 理事・事務局長（元九州大学教授） 辰巳 浩 福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授
第 11 回講演会(11/6)	「それでも世界は動く」 村尾信尚 日本テレビ NEWS ZERO メーンキャスター
セミナー 8 （11/22）	・専門有識者へのプレゼンテーション及びディスカッション、最終取りまとめ 村藤 功 九州大学経済学研究院 教授
第 12 回講演会(12/8)	「中国といかに付き合うか」 宮本雄二 前中国特命全権大使

●主催

国立大学法人九州大学、社団法人九州経済連合会、財団法人九州地域産業活性化センター、
財団法人九州経済調査協会、株式会社西日本新聞社

●事務局

地域政策デザイナー養成講座（九州大学セミナー） 事務局

〒810-0041 福岡市中央区大名 1-9-48（九州経済調査協会内） Tel:092-721-4905 Fax:092-722-6205

事務局長 谷口博文（国立大学法人九州大学 産学連携センター教授）

2010年度 地域政策デザイナー養成講座 提言
（九州大学セミナー）

九州の自立と成長戦略
～魅力ある九州の実現のために～

現状と課題

アジアの活力
を九州に取り
込むにはどう
するか

◆通訳ガイドの仕事が
できない。
◆ビザが取りにくい。
在留資格の職種制限
が就職に支障となっ
ている。

◆観光客のニーズにつ
いてマーケティング
リサーチが弱く対応
も遅い。
◆地域の観光資源をコ
ーディネートできる
人材が少ない。

留学生や研究者など
の受入れ側の支援が
不十分で、在留手続
き、入試、住宅、アル
バイト、生活資金、社
会保障、地域活動等
様々な場面で問題。

研究教育環境やキャ
リアパスについて外
国人留学生・研究者へ
の情報発信力が不足
している。

各県に配慮したPR
となっているため、逆
に九州の「売り」が何
なのか、はっきりしな
い。

◆外国人にとって町の
案内がわからない。
◆日本人でもどこで何
に乗れば行きたいと
ころに行けるのかわ
かりにくい。

◆交通事業者が違うと
乗り継ぎが不便。
◆結節点の乗換施設が
不十分。雨に濡れる。
◆乗り換えるたびに初
乗り料金がかかり割
高。

◆運賃収入で賄えない
路線は、公共交通機関
の撤退が相次ぐ。
◆子供や高齢者、車が
運転できない人の移
動が確保できない。

誰にとっても
便利に動ける
まちをどうつく
るか

◆バスは渋滞に巻き込
まれ、定時性が保たれ
ず時間がかかる。
◆生活の足として使い
にくい。

◆利用者の立場から地
域の実情に合った総
合的・横断的な交通体
系を作る責任が不明
確。
◆規制が地域の実情に
あっていない。

魅力ある九州の実現のために —10の提言—

アジアの人々が「行きたい、学びたい、住みたい」と思える九州

観光

留学・学術研究

ビジネス

九州アジア総合特区

◆「通訳案内士」制度の規制
緩和・「在留資格における職
種制限」の緩和等。

観光専門職大学院 （観光 MBA）

◆観光業のリーダーを目指す
人材を集め、「アジアNo.1 観光
教育機関」を目指す。

九州新広域連合へ 発展

（観光行政の一元化）
◆ 各自治体の権限・組織を
吸収、九州一体で推進。
（国の権限の受け皿）
◆ 税関・出入国管理・検疫
の実務、通訳案内士制度、
ビザ（査証）発行等の権
限移譲。
（意思決定の迅速化）
◆ 連合長・議員は公選
◆ 広域連合の独自財源を確
保

九州国際サポート センター

（ワンストップ窓口）
◆外国人の受入や定着、企業
の進出を一元的に支援。企
業や大学と連携。

九州立大学

◆九州の10 国立・9公立大
学の強みを持ち寄り、ブラ
ンド化。私立大学や国、民
間研究機関とも連携。

「利用者目線の公共交通ネットワーク」で魅力あるまちへ

わかりやすい・早くて安い・シームレス

*シームレス：利用者が複数のサービスを違和感なく統合して利用できること

絵図面による表示 パブリックデザインの統一

◆グローバルな九州の一步。
世界基準に統一されたサイ
ンを導入し、まちをわかり
やすくする。

継目のない交通網 シームレス・ネットワーク

◆乗換えがスムーズ。雨にも
濡れず、どの交通手段を使
っても乗換え料金がかから
ない

九州新広域連合 （交通部門）へ展開

◆地域公共交通に関する国
の許認可権限を移譲。地域
の実情に応じた交通事業
の展開が可能となる。

バス・ラピッド・ト ランジット（BRT）

◆道路中央の専用レーンを電
車の代わりにバスが走る。

地域交通計画会議

◆交通事業者、自治体、利用
者代表が参加し、利用者目
線で地域の実情にあった総
合交通体系を構築する。

総合交通財源

◆旧道路特定財源、公共交
通の受益者（乗降客以外）な
どから広く負担を求め、移動権
を確保する財源とする。

九州の自立に向けて

魅力ある九州



ピクトグラムの例

セカンドステップ

- ・九州新広域連合（観光・交通）
- ・観光専門職大学院（観光 MBA）
- ・九州立大学の創立
- ・地域交通計画会議の設置
- ・総合交通財源の確保

ファーストステップ

- ・九州アジア総合特区
- ・九州国際サポートセンターの設置
- ・ピクトグラムによる表示に統一
- ・シームレス・ネットワークの構築
- ・BRT の導入

現 状

- ・九州地域戦略会議
- ・九州観光推進機構
- ・九州アジア観光推進特区（申請中）
- ・地域公共交通の協議会
- ・IC カードの相互利用
- ・文字による案内表示



BRT 導入の例（ブラジル、クリチバ市）